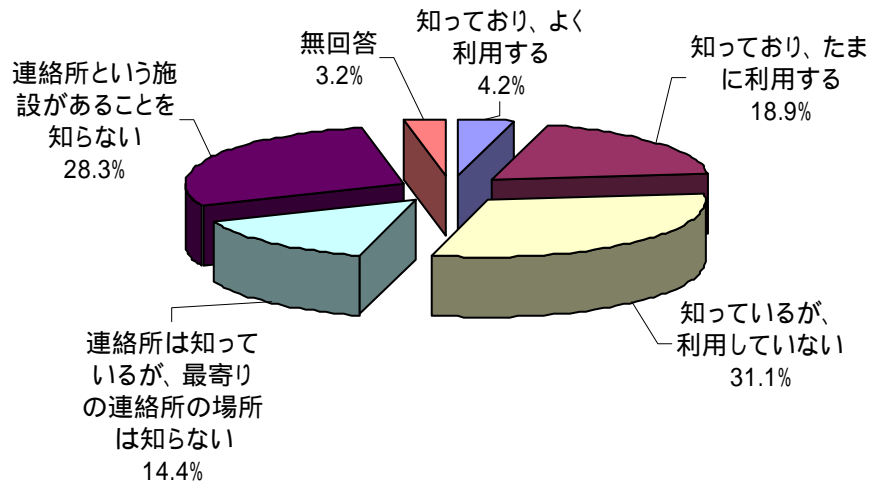


テーマ2 連絡所のまちづくりセンター改編について

連絡所の認知度

問3 あなたは、最寄りの連絡所を利用していますか。次の中からあてはまるものに1つだけをつけてください。

(N = 4,832)



(全体の結果)

「知っているが、利用していない」が最も多く 31.1%、次いで「連絡所という施設があることを知らない」が 28.3%、「知っており、たまに利用する」が 18.9%であった。

(男女別の結果)

男女別で選択項目の順位・割合に目立った差は見られなかった。

(年代別の結果)

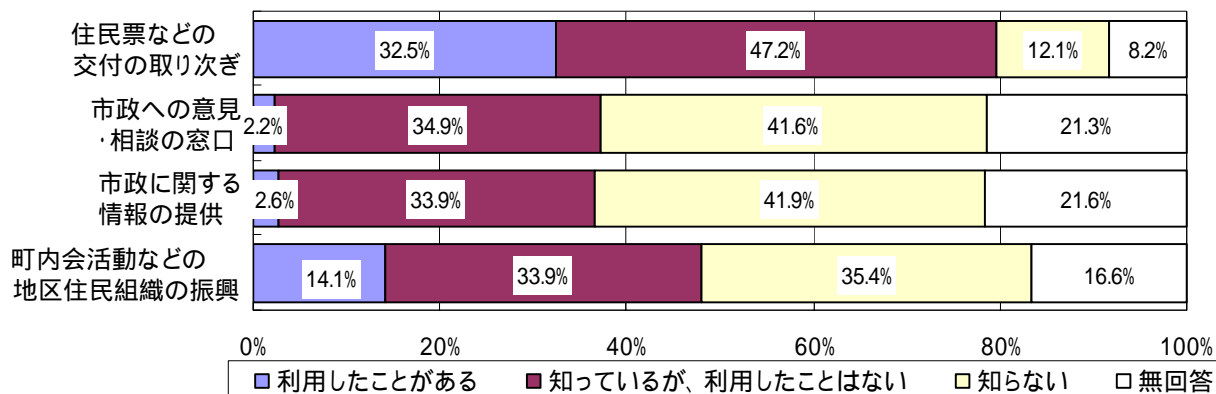
20～30歳代は「連絡所という施設があることを知らない」が最も多く、20歳代では5割を超えた。40歳代以上は「知っているが、利用していない」が最も多かった。

最寄りの連絡所は「知っているが、利用していない」という人が31.1%

連絡所の業務の利用状況

問4 あなたは、連絡所の業務について、ご存知ですか。また、利用していますか。次のア～エの各項目のあてはまる番号に1つだけをつけてください。

(N = 3,311)



(全体の結果)

【住民票などの交付の取り次ぎ】

「利用したことがある」32.5%、「知っているが、利用したことはない」47.2%、「知らない」12.1%

【市政への意見・相談の窓口】

「利用したことがある」2.2%、「知っているが、利用したことはない」34.9%、「知らない」41.6%

【市政に関する情報の提供】

「利用したことがある」2.6%、「知っているが、利用したことはない」33.9%、「知らない」41.9%

【町内会活動などの地区住民組織の振興】

「利用したことがある」14.1%、「知っているが、利用したことはない」33.9%、「知らない」35.4%

(男女別の結果)

【住民票などの交付の取り次ぎ】

男女とも「知っているが、利用したことはない」が最も多かった。

【市政への意見・相談の窓口】

男性は「知っているが、利用したことはない」、女性は「知らない」が最も多かった。

【市政に関する情報の提供】

男性は「知っているが、利用したことはない」、女性は「知らない」が最も多かった。

【町内会活動などの地区住民組織の振興】

男女とも「知っているが、利用したことはない」が最も多かった。

(年代別の結果)

【住民票などの交付の取り次ぎ】

各年代とも「知っているが、利用したことはない」が最も多く、30～40歳代は5割を超える。

【市政への意見・相談の窓口】

20～50歳代は「知らない」が最も多く、20～30歳代は6割を超えた。50歳以上は「知っているが、利用したことはない」が最も多かった(50歳代はどちらの項目も40.6%で同じ割合であった)。

【市政に関する情報の提供】

20～50歳代は「知らない」が最も多く、20～30歳代は6割を超えた。60歳以上は「知っているが、利用したことはない」が最も多かった。

【町内会活動などの地区住民組織の振興】

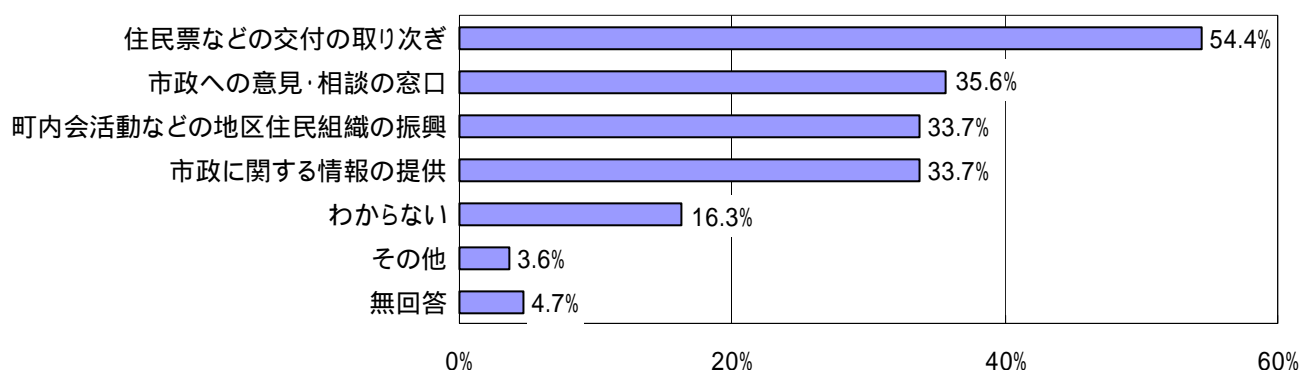
20～40歳代は「知らない」が最も多く、20歳代は6割を超えた。50～60歳以上は「知っているが、利用したことはない」、70歳以上は「利用したことがある」が最も多かった。

連絡所の業務を「知っているが、利用したことはない」という人は3割を超える。

連絡所の役割に対する意向（複数回答）

問5 あなたが、現在の連絡所の役割で重要だと思うものは何ですか。次の中からあてはまるものにいくつでもをつけてください。

(N = 4,832)



（全体の結果）

「住民票などの交付の取り扱い」が最も多く 54.4%、次いで「市政への意見・相談の窓口」が 35.6%であった。

（男女別の結果）

男女とも「住民票などの交付の取り扱い」が最も多かったが、女性が 57.8%と男性の 49.4%を 8.4ポイント上回った。第2位の項目としては、男性が「町内会活動などの地区住民組織の振興」、女性が「市政への意見・相談の窓口」であった。

（年代別の結果）

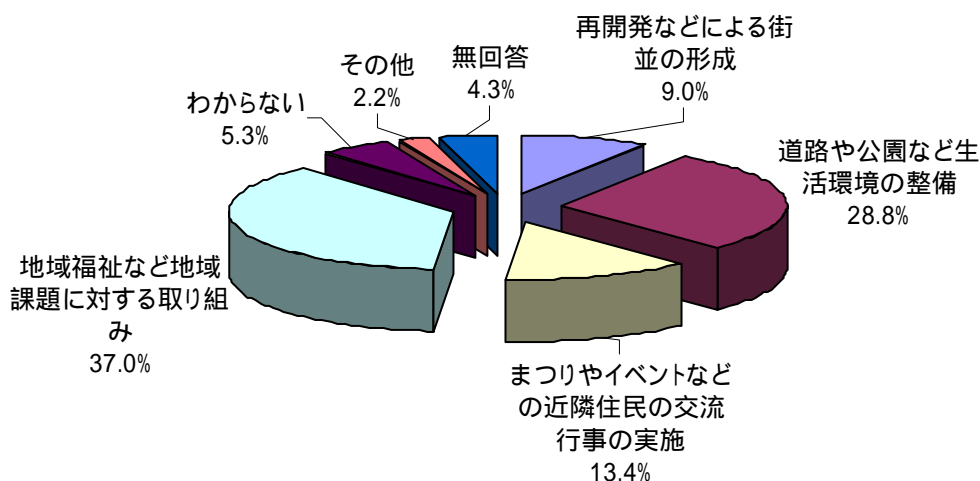
各年代とも「住民票などの交付の取り扱い」が最も多かった。第2位の項目としては、20～40歳代は「市政への意見・相談の窓口」、50歳以上は「町内会活動などの地区住民組織の振興」が最も多かった。

現在の連絡所の役割として、「住民票などの交付の取り扱い」と答えた人が最も多く 54.4%

「まちづくり」に対するイメージ

問6 地域における住民自治の発展を目指すにあたり「まちづくり」をキーワードにしていますが、「まちづくり」に、どのようなイメージをお持ちですか。次の中からあなたの考えに最も近いものに1つだけをつけてください。

(N = 4,832)



（全体の結果）

「地域福祉など地域課題に対する取り組み」が最も多く 37.0%、次いで「道路や公園など生活環境の整備」が 28.8%であった。

（男女別の結果）

男女別で選択項目の順位・割合に目立った差は見られなかった。

（年代別の結果）

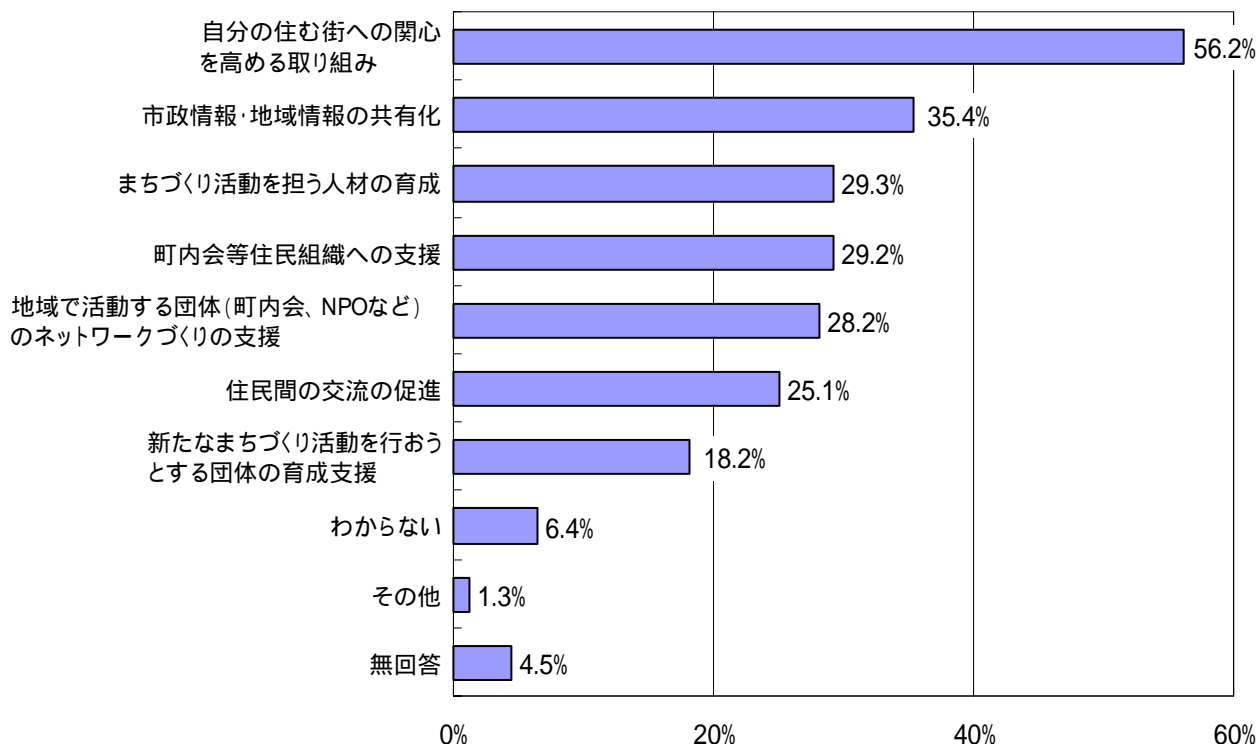
20歳代及び40歳以上は「地域福祉など地域課題に対する取り組み」が最も多く、30歳代は「道路や公園など生活環境の整備」が最も多かった。

「まちづくり」に対するイメージとして「地域福祉など地域課題に対する取り組み」と答えた人が最も多く 37.0%

「(仮)まちづくりセンター」の業務に対する意向(複数回答)

問7 「(仮)まちづくりセンター」の重要な役割として、住民が主体となった地域課題への取り組みを支援することとしています。そのために、どの取り組みが重要だと思いますか。次の中からあなたの考えに最も近いものに3つまでをつけてください。

(N = 4,832)



(全体の結果)

「自分の住む街への関心を高める取り組み」が最も多く56.2%、次いで「市政情報・地域情報の共有化」が35.4%であった。

(男女別の結果)

男女別で選択項目の順位・割合に目立った差は見られなかった。

(年代別の結果)

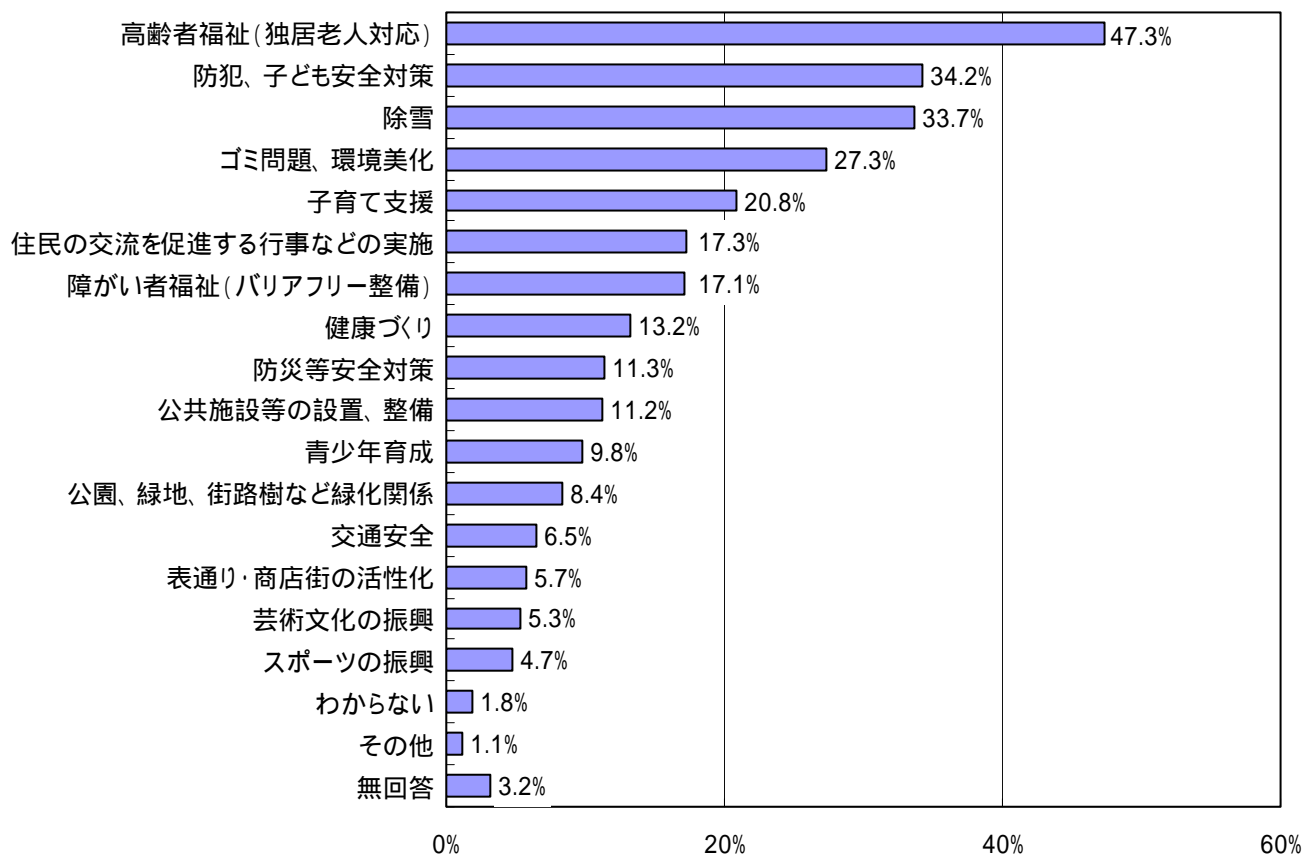
各年代とも「自分の住む街への関心を高める取り組み」が最も多かった。第2位の項目としては、20～60歳代は「市政情報・地域情報の共有化」、70歳以上は「町内会等住民組織への支援」が最も多かった。

「(仮)まちづくりセンター」の重要な役割として、「自分の住む街への関心を高める取り組み」と答えた人が最も多く56.2%

「(仮)まちづくりセンター」に支援を期待する活動分野に対する意向（複数回答）

問8 これまでも町内会やボランティアなど様々な団体が地域に貢献する活動を行っています。今後、「(仮)まちづくりセンター」が活動を支援すべきこととして何が重要だとお考えですか。次の中からあなたの考えに最も近いものに3つまで をつけてください。

(N = 4,832)



（全体の結果）

「高齢者福祉（独居老人対応）」が最も多く 47.3%、次いで「防犯、子ども安全対策」が 34.2%、「除雪」が 33.7%であった。

（男女別の結果）

男女とも「高齢者福祉（独居老人対応）」が最も多かったが、女性が 50.6%と男性の 42.0%を 8.6ポイント上回った。第2位の項目としては、男性が「除雪」、女性が「防犯、子ども安全対策」であった。

（年代別の結果）

20歳代及び40歳以上は「高齢者福祉（独居老人対応）」が最も多く、50～60歳代では5割を超えた。30歳代は「防犯、子ども安全対策」が最も多かった。第2位の項目としては、20～30歳代は「子育て支援」、40歳代は「防犯、子ども安全対策」、50歳以上は「除雪」であった。

「(仮)まちづくりセンター」に支援を期待する活動として、「高齢者福祉(独居老人対応)」と答えた人が最も多く 47.3%